

### 令和4年度(2022年度) 建設コストの計画と実績

債務引受限度額と会社から引き受けた債務との対比を下記に示します。

令和4年度(2022年度)に完了した事業について、計画と実績に差が生じた主な理由は、工事数量の確定(精算)等によるものです。

令和4年度(2022年度)に完了しなかった事業について、計画と実績に差が生じた主な理由は、新設・改築事業では附帯工事等の工事が令和5年度以降に残ったこと、利便増進事業(スマートIC)が令和5年度以降計画的に実施されること、修繕事業や特定更新等工事では工程の見直し等で機構への帰属を令和5年度以降としたこと、災害復旧事業では過去の実績をもとに料金徴収期間満了までに必要となる額が債務引受限度額として計上されていることによるものです。

[単位:百万円(消費税込み)]

道階名(区間名)	債務引受限度額(計画)(A)	債務引受額(実績)			(D)-(A)	債務引受限度額と債務引受額についてのコメント
		令和3年度まで(B)	令和4年度(C)	計(D)=(B)+(C)		
第二東海自動車道横浜名古屋線 伊勢原大山IC~新秦野IC新設事業	366,183	0	218,627	218,627	△ 147,555	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・令和4年度の債務引受額は、伊勢原大山IC~新秦野ICの供用に要した費用。
第二東海自動車道横浜名古屋線 長泉沼津IC~浜松いなさJCT新設事業	978,282	924,878	22,453	947,331	△ 30,950	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・令和4年度の債務引受額は、残事業の一部に要した費用。
近畿自動車道敦賀線 小浜IC~敦賀JCT新設事業	180,650	153,157	21,636	174,793	△ 5,856	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・令和4年度の債務引受額は、残事業の一部に要した費用。
東海北陸自動車道 白鳥IC~飛騨清見IC改築事業	114,294	111,501	1,784	113,286	△ 1,007	・差額は、工事数量の確定等による減。
第二東海自動車道横浜名古屋線 秦野丹沢スマートIC改築事業	832	0	696	696	△ 135	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・令和4年度の債務引受額は、秦野丹沢スマートICの供用に要した費用。
一般国道138号(東富士五湖道路) 富士吉田忍野スマートIC改築事業	3,679	0	3,495	3,495	△ 183	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・令和4年度の債務引受額は、富士吉田忍野スマートICの供用に要した費用。
第二東海自動車道横浜名古屋線 刈谷スマートIC改築事業	1,852	1,766	27	1,794	△ 57	・差額は、工事数量の確定等による減。
近畿自動車道名古屋神戸線 亀山西JCT~甲賀土山IC改築事業	56,612	0	3,840	3,840	△ 52,771	・差額は、未運用区間及び附帯工事等の残事業に要する費用。 ・令和4年度の債務引受額は、一部区間の6車線化に要した費用。
中央自動車道富士吉田線等 令和4年度修繕事業	299,425	—	120,270	120,270	△ 179,154	・差額は、修繕計画の見直しにより次年度以降に債務引受する費用。
中央自動車道富士吉田線等 災害復旧事業	88,467	37,357	3,041	40,398	△ 48,068	・差額は、令和5年度以降の災害対応に要する費用。
中央自動車道富士吉田線等 令和4年度特定更新等工事	186,769	—	76,615	76,615	△ 110,153	・差額は、特定更新等工事計画の見直しにより次年度以降に債務引受する費用。
一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路)) 令和4年度修繕事業	1,335	—	14	14	△ 1,320	・差額は、修繕計画の見直しにより次年度以降に債務引受する費用。

注1) 令和4年度(2022年度)に債務引受けを行ったものについて、継続中事業を含めすべて記載している。なお、灰色着色行は、令和4年度(2022年度)に完了している新設・改築事業である。

注2) 端数処理の関係上、計が合わないことがある。

注3) 修繕事業に関する債務引受限度額(計画)は、令和4年度(2022年度)までの債務引受限度額(計画)の累計から、令和3年度(2021年度)までの債務引受額(実績)を控除している額である。

注4) 特定更新等工事に関する債務引受限度額(計画)は、令和4年度(2022年度)までの債務引受限度額(計画)の累計から、令和3年度(2021年度)までの債務引受額(実績)を控除している額である。